吉田学園医療歯科専門学校

授業科目	心理学 担当教員				新井田 光希						
(科目ID)				(実務経験)	有□無☑						
対象年次·学期	1年•前	 前期		必修·選択区分	必修	単位数	1単位				
授業形態	講義			授業回数(1回90分)	8	時間数	16時間				
授業目的	科学的	内なアプローチを用い <i>た</i>	と様々な実験を紹介	し、人間の"心の機能"につい	の機能"についての基本概念を把握することを目的とする。						
到達目標	人間の)心の機能について説	明、実践できる。								
テキスト・参考図書等	教科書	書は特に指定せず、各	講義ごとにプリントを	を配付する。							
		評価方法	評価割合(%)		評価基	準					
	試験		100%								
評価方法・	レポー	· ト	%								
評価基準	小テス	!	%	試験により評価する。							
	提出物	d	%								
	その他	<u> </u>	%								
履修上の 留意事項	プリン	トや板書を中心にした	講義形式。								
	回数		履修主題 履修内容								
	四纵		復修土趄			履修内容					
		心理学とは	復修土趄		心理学とは。この講義の概要						
	1	心理学とは 認知心理学(1)	腹惨土超		心理学とは。この講義の概要 人間の認知機能について(記	など					
	1		腹惨土超			信)					
	1 2 3	認知心理学(1)	腹惨土超		人間の認知機能について(記	など (憶) (覚)					
	1 2 3	認知心理学(1)認知心理学(2)	腹惨土超		人間の認知機能について(記 人間の認知機能について(感	など (憶) (覚) (覚)					
	1 2 3 4 5	認知心理学(1) 認知心理学(2) 認知心理学(3)	腹惨土超		人間の認知機能について(記 人間の認知機能について(感 人間の認知機能について(知	(億) (億) (覚) (関)					
履修主題・	1 2 3 4 5 6	認知心理学(1) 認知心理学(2) 認知心理学(3) 認知心理学(4)	腹惨土超		人間の認知機能について(記 人間の認知機能について(感 人間の認知機能について(知	など (億) (億) (党) (党) (対) (対)	方法(1)				
履修主題・ 履修内容	1 2 3 4 5 6 7	認知心理学(1) 認知心理学(2) 認知心理学(3) 認知心理学(4) 社会心理学	腹惨土超		人間の認知機能について(記 人間の認知機能について(感 人間の認知機能について(知 人間の認知機能について(学 集団内での人間の行動につい	など (意) (意) (覚) (習) (かて) (学の理論と実践的な					
	1 2 3 4 5 6 7	認知心理学(1) 認知心理学(2) 認知心理学(3) 認知心理学(4) 社会心理学 臨床心理学(1)	腹惨土超		人間の認知機能について(記 人間の認知機能について(感 人間の認知機能について(知 人間の認知機能について(学 集団内での人間の行動につし 医療分野で用いられる心理等	など (意) (意) (覚) (習) (かて) (学の理論と実践的な					
	1 2 3 4 5 6 7 8 8	認知心理学(1) 認知心理学(2) 認知心理学(3) 認知心理学(4) 社会心理学 臨床心理学(1)	腹惨土超		人間の認知機能について(記 人間の認知機能について(感 人間の認知機能について(知 人間の認知機能について(学 集団内での人間の行動につし 医療分野で用いられる心理等	など (意) (意) (覚) (習) (かて) (学の理論と実践的な					
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 9	認知心理学(1) 認知心理学(2) 認知心理学(3) 認知心理学(4) 社会心理学 臨床心理学(1)	腹惨土超		人間の認知機能について(記 人間の認知機能について(感 人間の認知機能について(知 人間の認知機能について(学 集団内での人間の行動につし 医療分野で用いられる心理等	など (意) (意) (覚) (習) (かて) (学の理論と実践的な					
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	認知心理学(1) 認知心理学(2) 認知心理学(3) 認知心理学(4) 社会心理学 臨床心理学(1)	腹惨土超		人間の認知機能について(記 人間の認知機能について(感 人間の認知機能について(知 人間の認知機能について(学 集団内での人間の行動につし 医療分野で用いられる心理等	など (意) (意) (覚) (習) (かて) (学の理論と実践的な					
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11	認知心理学(1) 認知心理学(2) 認知心理学(3) 認知心理学(4) 社会心理学 臨床心理学(1)	腹惨土超		人間の認知機能について(記 人間の認知機能について(感 人間の認知機能について(知 人間の認知機能について(学 集団内での人間の行動につし 医療分野で用いられる心理等	など (意) (意) (覚) (習) (かて) (学の理論と実践的な					
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	認知心理学(1) 認知心理学(2) 認知心理学(3) 認知心理学(4) 社会心理学 臨床心理学(1)	腹惨土超		人間の認知機能について(記 人間の認知機能について(感 人間の認知機能について(知 人間の認知機能について(学 集団内での人間の行動につし 医療分野で用いられる心理等	など (意) (意) (覚) (習) (かて) (学の理論と実践的な					

吉田学園医療歯科専門学校

授業科目		表現基礎		担当教員			横山昌明					
(科目ID)				(実務経験)	有口無	V	別紙1参照					
対象年次・学期	1年•通	類		必修·選択区分	必修		単位数	2単位				
授業形態	講義			授業回数(1回90分)	15		時間数	30時間				
授業目的	社会人	、として求められるコミ:	ュニケーション能力の	D基礎を習得する。	<u></u> გ.							
到達目標		社会に対応できる国語 現場で必要なコミュニク		」、書く力、話す力、聞く力)を	身に付け正しい読	解や表現が	ヾできるようになる。					
テキスト・ 参考図書等	キャリ	アアップ国語表現法23	訂版 嵯峨野出版									
		評価方法	評価割合(%)			評価基	準					
	試験		40%									
評価方法・	レポー	+	20%									
評価基準	小テス	+	20%	総合して評価する								
	提出物	9	20%									
	その他	1	%									
履修上の 留意事項				て、事前に出題範囲を伝えて こいて活発な意見を求める。	実施し、授業での理	解度を確	認する。					
	回数		履修主題				履修内容					
	回数	文法①	履修主題		品詞の種類と働き	を理解する						
	1	文法①	履修主題				5.	言葉、「さ」入れ言葉)				
	1 2	_	履修主題		動詞の種類と活用	を理解する	5.					
	1 2 3	文法②	履修主題		動詞の種類と活用接続詞と助詞の使語順と係り受け、調	を理解する い方と数ほ	る。 る。(誤用:「ら」抜きす 助詞の種類を理解す	.				
	1 2 3 4	文法②	履修主題		動詞の種類と活用接続詞と助詞の使語順と係り受け、記文のねじれ(主語:	を理解する い方と数ほ 語句の誤用 述語を正し	る。(誤用:「ら」抜き 助詞の種類を理解す	రెం				
	1 2 3 4 5	文法② 文法③ 文法④	履修主題		動詞の種類と活用接続詞と助詞の使語順と係り受け、記文のねじれ(主語:	を理解する。(注 所する。(注 を理解する。(注	る。(誤用:「ら」抜きま 助詞の種類を理解す は。 くとらえる)を理解す 対義・類義・上下・並	రెం				
	1 2 3 4 5 6	文法② 文法③ 文法④ 語彙を増やす①	履修主題		動詞の種類と活用 接続詞と助詞の使 語順と係り受け、記文のねじれ(主語: 語と語の関係を理 自動詞・他動詞・原	を理解するにい方と数は 番句の誤用 おおき を正し解する。(注	る。(誤用:「ら」抜きま 助詞の種類を理解す は。 くとらえる)を理解す 対義・類義・上下・並	る。 る。 列)				
履修主題・ 履修内容	1 2 3 4 5 6 6 7	文法② 文法③ 文法④ 語彙を増やす① 語彙を増やす②	履修主題		動詞の種類と活用 接続詞と助詞の使 語順と係り受け、記文のねじれ(主語: 語と語の関係を理 自動詞・他動詞・原	を理解するにい方と数に 番点語を正し 解する。(:	る。 (誤用:「ら」抜き 助詞の種類を理解す d。 くとらえる)を理解す 対義・類義・上下・並 を理解する。	る。 る。 列)				
	1 2 3 4 5 6 6 7 8 8	文法② 文法③ 文法④ 語彙を増やす① 語彙を増やす② 敬語の使い方	履修主題		動詞の種類と活用接続詞と助詞の傾語順と係り受け、語文のねじれ(主語:語と語の関係を理自動詞・他動詞・限丁寧語、尊敬語、漢字、送り仮名、位	を理解するにい方と数に	る。 (誤用:「ら」抜き 助詞の種類を理解す d。 くとらえる)を理解す 対義・類義・上下・並 を理解する。	る。 る。 列) J。				
	1 2 3 4 5 6 7 8 8 9	文法② 文法③ 文法④ 語彙を増やす① 語彙を増やす② 敬語の使い方 表記	履修主題		動詞の種類と活用接続詞と助詞の傾語 (本り受け、語文のおじれ(主語: 語と語の関係を理自動詞・他動詞・原丁寧語、尊敬語、漢字、送り仮名、任長文のテーマ、趣	を理解すると数話 音点語 解する。(注意 東述の副語 集	る。(誤用:「ら」抜き割 動詞の種類を理解す くとらえる)を理解す 対義・類義・上下・並 を理解する。	る。 る。 列) J。 れの復習。				
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	文法② 文法③ 文法④ 語彙を増やす① 語彙を増やす② 敬語の使い方 表記 長文読解			動詞の種類と活用接続詞と助詞の傾語 (本り受け、語文のおじれ(主語: 語と語の関係を理自動詞・他動詞・原丁寧語、尊敬語、漢字、送り仮名、任長文のテーマ、趣	を理解する。(注 解する。(注 解する。(注 兼述の副語 兼	5。 5。 5。(誤用:「ら」抜き記 か詞の種類を理解す 6。(とらえる)を理解す 対義・類義・上下・並 を理解する。 重敬語、敬語の誤り 把握する。文のねじ な)を理解する。文の	る。 る。 列) J。 れの復習。				
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 111	文法② 文法③ 文法④ 語彙を増やす① 語彙を増やす② 敬語の使い方 表記 長文読解 文章表現			動詞の種類と活用接続詞と助詞の傾語順と係り受け、語と語の関係を理自動詞・他動詞・順動語、尊敬語、漢字、送り仮名、任長文のテーマ、趣小論文の書き方(を理解するにい方と数距音が高い方と数距音が高い方と数距音が高いに高速を正して解する。にいるでは、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、は、	る。(誤用:「ら」抜き記 あ。(誤用:「ら」抜き記 助詞の種類を理解す くとらえる)を理解す 対義・類義・上下・並 を理解する。 重敬語、敬語の誤り 把握する。文のねじ 成)を理解する。文のねじ	る。 る。 列) J。 れの復習。				
	1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12	文法② 文法③ 文法④ 語彙を増やす① 語彙を増やす② 敬語の使い方 表記 長文読解 文章表現 臨床工学技士の役割			動詞の種類と活用接続詞と助詞の便語吸と係り受け、語吸と係り受け、語文のねじれ(主語: 古と語の関係を理自動詞・他動詞・服力 寧語、尊敬語、漢字、送り仮名、化長文のテーマ、趣小論文の書き方(臨床工学技士の危働くということの価	を理解するにい方と数距音が出版である。にい方と数距していた。 語が ない はい ない はい ない はい はい はい はい ない はい	る。(誤用:「ら」抜き記 あ。(誤用:「ら」抜き記 助詞の種類を理解す くとらえる)を理解す 対義・類義・上下・並 を理解する。 重敬語、敬語の誤り 把握する。文のねじ 成)を理解する。文のねじ	る。 る。 列) J。 れの復習。 ねじれの復習。				
	1 2 3 4 5 6 7 8 8 9 10 11 12 13	文法② 文法③ 文法④ 語彙を増やす① 語彙を増やす② 敬語の使い方 表記 長文読解 文章表現 臨床工学技士の役割 仕事の使命感につい			動詞の種類と活用接続詞と助詞の便語吸と係り受け、語吸と係り受け、語文のねじれ(主語: 古と語の関係を理自動詞・他動詞・服力 寧語、尊敬語、漢字、送り仮名、化長文のテーマ、趣小論文の書き方(臨床工学技士の危働くということの価	を理解すると数に 音点 解する。 に 音点 解する。 に	る。(誤用:「ら」抜き記 動詞の種類を理解する。 くとらえる)を理解す 対義・類義・上下・並 を理解する。 重敬語、敬語の誤り 把握する。文のねじ 対き理解する。文の について学ぶ。 いて考える。	る。 る。 列) J。 れの復習。 ねじれの復習。				

2023年度 吉田学園医療歯科専門学校 臨床工学科 別紙1

	日田子園庭派	217-47 17-1X		7		771/1 1.17
授業科目	表現基礎	担当教員			池田純幸	
(科目ID)		(実務経験)	有区	無	臨床工学技士として勤務	
対象年次·学期	1年•通期	担当教員				
授業形態	講義	(実務経験)	有□	無		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無		
		担当教員				
		(実務経験)	有□	無		

吉田学園医療歯科専門学校

授業科目		生物学		担当教員		山内芳子						
(科目ID)				(実務経験)	有口 無 🗹							
対象年次・学期	1年•前	立		必修·選択区分	必修	単位数	2単位					
授業形態	講義			授業回数(1回90分)	15	時間数	30時間					
授業目的	人間の)身体を学習する上で	基本である生物、特	に細胞の機能について重点	- 細胞の機能について重点的に学習する。 							
到達目標	・細胞	の基本的構造と機能、	細胞分裂、遺伝情報	級の発現について説明できる	。・ME2種および国家試験	の関連問題が解ける	0					
テキスト・ 参考図書等	基礎か	いら学ぶ生物学・細胞 生	⋸物学 第4版(羊土:	社)、プリント								
		評価方法	評価割合(%)		評価	i基準						
	試験		100%									
評価方法・	レポー	ŀ	%									
評価基準	小テス	ŀ	%	最終評価は試験100%とする	5.							
	提出物	7	%									
	その他	1	%									
履修上の 留意事項	②不明		点はそのままにせず	かりとる。 「に質問をして理解できるよう し理解度を確認するため必								
	回数		履修主題			履修内容						
	1	生物学の基本			進化論•細胞説							
	2	細胞のプロフィール(1)		細胞の構造、細胞内小器官の働き							
	3	細胞のプロフィール(2	2)		細胞内小器官の働き							
	4	細胞を構成する物質	(1)		糖質、タンパク質							
	5	細胞を構成する物質	(2)		脂質、核酸							
	6	遺伝情報(1)			遺伝子、染色体、DNA							
履修主題•	7	遺伝情報(2)			遺伝情報の発現							
履修内容	8	エネルギー代謝			ATP産生過程							
	9	タンパク質の機能(1)			タンパク質の種類と機能							
	10	タンパク質の機能(2)			筋収縮							
	11	発生と分化(1)			DNAの複製、細胞分裂							
	12 発生と分化(2) 突然変異											
	13	発生と分化(3)			減数分裂、受精							
	14	発生と分化(4)			発生過程							
	15	遺伝の法則			メンデルの法則							

吉田学園医療歯科専門学校

授業科目		物理学		担当教員			小山 有基				
(科目ID)				(実務経験)	有□	無 ∠					
対象年次·学期	1年・前	丁期		必修·選択区分	必修		単位数	2単位			
授業形態	講義			授業回数(1回90分)	15		時間数	30時間			
授業目的	基礎工	ご学の基礎である物理	を学び、科学的思考	の基盤を固める。	を固める。						
到達目標	・接頭	語および単位を使用で	きる。・各種物理」	量およびその算出ができる。	・ME2種および	び国家試験の特	物理学分野の問題が	「解ける。			
テキスト・ 参考図書等	プリン	トを配付									
		評価方法	評価割合(%)			評価基	準				
	試験		90%								
評価方法・	レポート 9										
評価基準	小テス	ŀ	10%	①定期試験 ②小テスト 以上を総合して評価する。							
	提出物	0	%	3							
	その他	1	%								
履修上の 留意事項	予習復	夏習を徹底すること。									
	回数		履修主題				履修内容				
	1	単位			SI単位、単位	換算、次元					
	2	力学(1)			速度						
	3	力学(2)			力、応力						
	4	力学(3)			エネルギー、	仕事					
	5	力学(4)			振動						
	6	力学(5)			流体力学						
履修主題•	7	熱力学(1)			熱力学第一、	第二法則(1)					
履修内容	8	熱力学(2)			熱力学第一、	第二法則(2)					
	9	波動(1)			波動、音波(1	1)					
	10	波動(2)			波動、音波(2	2)					
	11	光(1)			光学(1)						
	12	光(2)			光学(2)						
	13	現代物理			電子、原子						
	14	電気(1)			電磁波(1)						
	15	電気(2)			電磁波(2)						

吉田学園医療歯科専門学校

₩₩ ₩ □		数学		担当教員				中西 勝範			
授業科目 (科目ID)				(実務経験)	有□	無□	y				
対象年次•学期	1年・前	立		必修·選択区分	必修			単位数	2単位		
授業形態	講義			授業回数(1回90分)	15			時間数	30時間		
授業目的	理工学	どの最も基礎となる科目	目である。数式とグラ	ラフの取り扱いに慣れ、他のこ	 ⊑学分野の内容	を把握:	するため	かの礎を築く。			
到達目標	計算力	」を養い、指数関数、対] 力数関数、三角関数	の関数を扱える。							
テキスト・参考図書等	教科書	書は特に指定せず、各語	講義ごとにプリントを	記付する。							
		評価方法	評価割合(%)				評価基	進			
	試験		100%								
評価方法・	レポー	· ト	%								
評価基準	小テス	. -	%	試験により評価する。							
	提出物	by the second se	%								
	その他	<u> </u>	%								
履修上の 留意事項	講義♂)各回に小テストを実施	近し、理解度を確認し	します。わからない部分はその	のままにせず、タ	質問をす	トること。				
	回数		履修主題					履修内容			
	1	数と式(1)			実数、絶対値						
	2	数と式(2)			根号、平方根、有理化						
	3	数と式(3)			整式の加法、減法、乗法						
	4	数と式(4)			因数分解						
	5	数と式(5)			整式の除法						
	6	数と式(6)			分数式						
履修主題•	7	2次関数(1)			2次関数とグラ	ラフ					
履修内容	8	2次関数(2)			2次方程式と2	次不等式	式				
	9	指数関数·対数関数((1)		指数の拡張と	指数法則	則				
	10	指数関数•対数関数((2)		指数関数と対	数関数					
	11	指数関数•対数関数((3)		常用対数と自	然対数					
	12	三角関数(1)			三角関数						
13 三角関数(2)					加法定理						
	14	総合問題練習(1)		問題練習(1)							
	15	総合問題練習(2)			問題練習(2)						

吉田学園医療歯科専門学校

2023年度			图科専門字 校	臨床工字科										
授業科目 (科目ID)		英語 I		担当教員(実務経験)	有		#	U	西村 智嘉男					
対象年次·学期	1年・後	沙期		必修·選択区分	必修				単位数	2単位				
授業形態	講義			授業回数(1回90分)	15				時間数	30時間				
授業目的				 文法に対する理解が深まる なく日本語に対する理解が)								
到達目標	「日本	語と英語の違いは何か	いと問われた時に、	具体的に返答することができ	るよう	うになる	0							
テキスト・参考図書等	プリン	トとパワーポイントのス	ライドを使用。 テュ	テスト・参考図書はなし。										
		評価方法	評価割合(%)					評価基	五基準					
	試験		%											
評価方法・	レポー	· F	90%											
評価基準	小テス		10%	レポートと小テストの合計を	100点	満点に	奐算し つ	て評価						
	提出物	0	%											
	その他	1	%											
履修上の 留意事項	積極的	かに質問をすること。												
	回数		履修主題						履修内容					
	1	日本語と英語。語川	頁に対する考え方	は大きく違う	日本	語は「·	てにを	は」の文	化 英語は語順(配置)の文化				
	2	日本語にはない英	語の語順(配置)の)ルールを学ぶ 1	他動	型の説明	明を通し	て主語・	動詞・目的語の説明	。 文型は英語学習上最も重要。				
	3	日本語にはない英	語の語順(配置)の)ルールを学ぶ 2	基本	5文型	の概略	を説明。	,					
	4	主語で動詞の形が	変わる英語。		日本	語には	ない。	感覚。日:	本語が特別なのか	、英語が特別なのか。				
	5	数にうるさい英語、	数え方にうるさい	日本語 1	数に	こだわら	ない日	本語。英	語は単数と複数を明	月確化。可算名詞と不可算名詞。				
	6	数にうるさい英語、	数え方にうるさい	日本語 2	日本	語には	、英語	話にない	助数詞(個、冊、匹	など)の存在。				
履修主題•	7	モノ(名詞)表現に終	載細な英語 1		I hav	e a pen	Ihave	the pen	. 何が違うのか。a=	÷決まらない。 the=1つに決まる。				
履修内容	8	モノ(名詞)表現に終	載細な英語 2		日本	語には	ない	艮定詞の	考え方 (someやa	ny等)				
	9	修飾方法の違い			前か	らしか作	多飾した	い日本	語 前から指定。 -	そして後ろから説明する英語。				
	10	基本5文型 1			①自	動型	②説明	1型 3付	也動型 ④授与型	⑤目的語説明型				
	11	基本5文型 2			①自	動型	②説明	1型 3付	地動型 ④授与型	⑤目的語説明型				
	12	基本5文型 3			①自	動型	②説明	月型 31	地動型 ④授与型	⑤目的語説明型				
	13	基本5文型以外で賞	覚えておくべき3つの	の型	①レ	ポート	文 ②	命令文	③there文					
	14	基本文型の拡張		①主	語の拡	張 ②	目的語	の拡張 ③説明語	音句の拡張					
	15	基本文型の拡張 2	2		①主語の拡張 ②目的語の拡張 ③説明語句の拡張									

吉田学園医療歯科専門学校

授業科目		化学		担当教員				山内 芳子				
(科目ID)				(実務経験)	有口	無	ď					
対象年次•学期	1年•前			必修·選択区分	必修			単位数	1単位			
授業形態	講義			授業回数(1回90分)	8			時間数	16時間			
授業目的	基本的	り用語、物質の構造や	性質、酸・塩基、酸化	ヒ・還元等の化学的な計算方	法を理解する	5.						
到達目標	生体機	機能代行装置の操作管	理に必要な化学分	野の知識を説明できるように	なる。							
テキスト・ 参考図書等	プリン	٢										
		評価方法	評価割合(%)		評価基準							
	試験		100%									
評価方法・	レポー	· ト	%									
評価基準	小テス	!	%	試験により評価する。								
	提出物	b	%									
	その他	<u>t</u>	%									
履修上の 留意事項	板書や	っプリントを使いながら	化学の基礎・基本的	3事項を学習するので、復習な	をしっかり行う	こと。						
	回数		履修主題					履修内容				
	1	原子			原子、原子』	量、同何	位体、同詞	秦体、周期表				
	2	化学結合			イオン結合、金属結合、共有結合、分子間カ							
	3	物質の質量と濃度(1)		モル濃度と当量濃度、浸透圧(1)							
	4	物質の質量と濃度(2)		モル濃度と	当量濃	度、浸透	圧(2)				
	5	物質の質量と濃度(3)		モル濃度と	当量濃	度、浸透	圧(3)				
	6	気体とその性質(1)			ボイルシャル	レルの	法則、気信	本の状態方程式、医	療ガス(1)			
履修主題•	7	気体とその性質(2)			ボイルシャル	レルの	法則、気化	本の状態方程式、医	療ガス(2)			
履修内容	8	酸化•還元			酸•塩基、中	和、ph	1					
	9											
	10											
	11											
	12											
	13											
	14											
	15											

吉田学園医療歯科専門学校

授業科目		人体の構造及び	機能 I	担当教員				山内 芳子			
(科目ID)				(実務経験)	有□	無	V				
対象年次•学期	1年・通	直期		必修·選択区分	必修			単位数	2単位		
授業形態	講義			授業回数(1回90分)	15			時間数	30時間		
授業目的	医学分	う野の最も基本をなすが	解剖学•生理学•発生	主学を学ぶことで正常な人体	常な人体の構造と機能を理解する。						
到達目標	人体の)構造・機能の説明をえ	求められた場合、正	しい説明ができる。							
テキスト・ 参考図書等	人体σ)構造と機能 第5版(原	医歯薬出版)								
		評価方法	評価割合(%)				評価基	基準			
	試験		100%								
評価方法・	レポー	-1-	%								
評価基準	小テス	<i>l</i> +	%	試験により評価する。							
	提出物	7	%								
	その他	<u> </u>	%								
履修上の 留意事項	板書た	iけでなく、質疑応答の	中でのキーワード	- 等もメモを取り、後から参照で	きるように	努めるこ	೬.				
	回数		履修主題					履修内容			
	1	解剖生理総論			身体の構	築レベル	、生命維持	寺プロセス、ホメオス	タシス		
	2	人体の構成			細胞、組織	哉					
	3	骨格系			骨の形と	構造、骨の	のでき方、	関節			
	4	外皮系			皮膚の構	造と機能					
	5	神経系(1)			神経系と	ま、神経症	細胞、シナ	プス			
	6	神経系(2)			中枢神経	系(1)					
	7	神経系(3)			中枢神経	系(2)					
履修主題· 履修内容	8	神経系(4)			末梢神経	系					
	9	運動系(1)			骨格筋の	構造と機	能				
	10	運動系(2)			運動の調	節					
	11	感覚器系(1)			体性感覚						
	12	感覚器系(2)			視覚						
	13	感覚器系(3)			聴覚・前原	医感覚					
	14	感覚器系(4)			味覚·嗅覚						
		1			内生殖器、外生殖器						

吉田学園医療歯科専門学校

授業科目		人体の構造及び	機能Ⅱ	担当教員					本吉 竜浩		
(科目ID)				(実務経験)	 ≉		1 #		臨床工学技士として	て病院勤務。当該科目の教育を行う。	
対象年次・学期	1年•道	直期		必修·選択区分	必修	Ş			単位数	2単位	
授業形態	講義			授業回数(1回90分)	15				時間数	30時間	
授業目的	医学分	}野の最も基本をなす!	解剖学・生理学・発生	生学を学ぶことで正常な人体	人体の構造と機能を理解する。						
到達目標	人体の)構造・機能の説明を落	求められた場合、正	しい説明ができる。							
テキスト・ 参考図書等	人体の)構造と機能 第5版([医歯薬出版)								
		評価方法 評価割合(%) 評価基準									
	試験		100%								
評価方法・	レポー	· 卜	%								
評価基準	小テス	\h	%	試験により評価する。							
	提出物	D	%								
	その他	<u>h</u>	%								
履修上の 留意事項	板書た	ごけでなく、アクティブラ	ーニングを取り入れ	るため自発的に取り組むこの	上。後	から参	参照できん	るように努	めること。		
	回数		履修主題						履修内容		
	1	血液系(1)			血液	ō、血>	夜型				
	2	血液系(2)			体液	の循	環、免疫				
	3	循環器系(1)			心臓	t、血1	管、動脈	静脈系			
	4	循環器系(2)			心臓	め拍	動、血圧				
	5	循環器系(3)			胎児	循環	、リンパ	系			
	6	呼吸器系(1)			呼吸	と器の	発生、鼻	、咽頭、喉	建頭、気管		
	7	呼吸器系(2)			肺、	縦隔、	. 呼吸の	調節			
履修主題· 履修内容	8	呼吸器系(3)			呼吸	運動	、肺の呼	吸機能			
	9	泌尿器系(1)			腎臓	t、膀 i	胱、尿路				
	10	泌尿器系(2)			尿の	生成	、尿量の	調節と排り	尿(1)		
	11	泌尿器系(3)			尿の	生成	、尿量の	調節と排り	录(2)		
	12	消化器系(1)			消化器の流れ、消化と吸収						
	13	消化器系(2)			肝臓	浅、膵 服	臓、胆囊 				
	14	内分泌系(1)			腺構	造と	分泌ホル	モン、作用	月(1)		
	15	内分泌系(2)			腺構	造と	分泌ホル	モン、作用	月(2)		

吉田学園医療歯科専門学校

授業科目		解剖学		担当教員						本吉 竜浩		
(科目ID)		22r109		(実務経験)	有		1	無				
対象年次·学期	1年•前			必修·選択区分	必修					単位数	2単位	
授業形態	講義			授業回数(1回90分)	15					時間数	30時間	
授業目的	臨床工	C学への応用を考慮し	ながら、各器官の解	剖学的特徴をその機能と関	連づけ	けて理	里解す	·る。				
到達目標	人体を	-構成する各器官、臓器	景の構造学的特徴と	その機能的役割を理解し、記	说明で	きる	0					
テキスト・ 参考図書等	プリン	۲										
		評価方法	評価割合(%)						評価基	準		
	試験		50%									
評価方法・	レポー	-	%									
評価基準	小テス	<i>l</i> +	50%	試験により評価する。								
	提出物	b	%									
	その他	<u>1</u>	%									
履修上の 留意事項	板書た	ごけでなく、積極的に自	己学習に努める事。	授業の終わりに毎回確認小	テスト	トを行	ゔう。					
	回数		履修主題							履修内容		
	1	骨格系について			骨の	形と	構造	、骨 <i>0</i>	でき方、	関節、体幹の骨、体	肢の骨、頭蓋骨	
	2	筋系について			筋の	形と	分類	、各部	『の筋			
	3	循環器系(1)			心臓	につ	いて	(1)				
	4	循環器系(2)			心臓	につ	いて	(2)				
	5	循環器系(3)			動脈	と静	脈・リ	ンパ	こついて			
	6	呼吸器系(1)			肺の	構造	i(気)	道•肺	胞)			
履修主題•	7	呼吸器系(2)			呼吸	筋、	呼吸	補助館	筋について	5		
履修内容	8	呼吸器系(3)			換気	のメ	カニス	ぐ ム(呼吸運動)		
	9	消化器系			消化	管に	つい	て(ロ	・食道・胃	・十二指腸・小腸・フ	大腸・直腸・肛門)	
	10	泌尿器系(1)			腎臓	とネ	フロン	につ	いて		で学技士として医療機器を用いた治療および危機管事し当該科目の教育を行う。 単位数 2単位 時間数 30時間 履修内容 本幹の骨、体肢の骨、頭蓋骨	
	11	泌尿器系(2)			排尿	路に	つい	て(尿	'管∙膀胱∙	・尿道など)		
	12	内分泌系			内分	泌腺	につ	いて	脳下垂体	・副腎・甲状腺など)	
	13	神経系			中枢	神経	につ	いて	(脳・脊髄)	1		
	14	14 感覚器系			味覚	•聴:	覚∙視	覚と	印覚につい	.17		
	15	生殖器系・まとめ		男女	の生	殖器	、今ā	までのまと	<u> </u>			